

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000235	事業の開始年月日	H26. 8. 1
		指定年月日	H26. 8. 1
法人名	株式会社 エクセレントケアシステム		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 えくせれんと湘南平塚		
所在地	(〒259-1216)		
	神奈川県平塚市入野294-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	H28. 11. 23	評価結果 市町村受理日	平成29年4月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/JDSearch.aspx?JGNAME=1492000235>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々の暮らしの中では、ご利用様が興味を持ってできる役割（生き物の世話、カレンダーの日付交換、園芸、調理、洗濯、掃除など）や活動（体操、散歩、買い物、工作、音楽、新聞の切り抜き、写経など）の支援を行い、年間行事としてご家族様を含めてクリスマス会や誕生会等を実施しています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年1月13日	評価機関 評価決定日	平成29年3月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

この事業所は、JR東海道線平塚駅からバスで15分、徒歩で5分ほどの場所に位置し、東海道新幹線が近くを通る新興住宅街の一角にある。法人は徳島に本社があり関西と関東で介護事業を手広く運営している。同じ建物の1階が看護小規模多機能型居宅介護事業所、2階と3階がグループホームになっている。開設後2年半の事業所である。

#### 【法人内での医療協力体制】

併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所との連携がよく取れており、事業所の特徴となっている。季節行事の合同開催だけでなく、運営推進会議や全体会議の共同開催により、常駐の看護師がグループホーム利用者の情報をよく把握できている。また事業所の協力医が併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所にも往診に来ており、緊急の場合1階の看護師が緊急対応できる体制があり、利用者家族や職員の安心に繋がっている。

#### 【ユニークな取り組み】

理念にもあるように利用者の尊厳を重要視している。「理念」とともに時間を大切に、自由に、自分らしく、自適に、自立する、というそれぞれの単語の頭文字をとった「Jの介護」、7つの接遇敬語を記載したカードを職員全員に配布し、毎朝唱和することで、いつでも尊厳を意識できる職員を育てている。また3つ目の理念「感動と喜びを与えるケア」の実践として、一昨年の1周年記念行事にアイドルグループを呼ぶなど粋にとらわれない取り組みを行っている。3周年目にあたる今年も継続する予定で、利用者も楽しみにしている。職員は防災や環境、サークル活動など11の委員会に分かれ、利用者には喜ばれるケアを模索している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	えくせれんと湘南平塚
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和を行い、意識付けの徹底を図っている	法人設立時に作成した5つの理念と「Jの介護」の5項目を、毎朝交互に唱和している。職員は理念の書かれたカードを所持し、理念に沿ったサービスの提供を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会情報を把握。民生委員との交流を積極的に行い、日常的に情報の交換を行なっている。又、それに伴い、地域行事への参加をしている	自治会に加入し、盆踊りやどんと焼き、公民館での催しなどに利用者と共に参加をしている。音楽や折り紙のボランティアが来訪している。地元の商店や大型スーパーに利用者と共に買い物に行っている。	地域資源の積極的利用により、利用者の生活が豊かになっています。今後は地域のために事業所ができることを模索しながらより一層地域との連携を深められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物等利用者様と一緒に出掛ける事により、積極的交流を図り認知症への理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、包括、家族、協力医等に毎回出席頂き、事業所状況の報告を行なっている。又、地域の方からの現状を伺う等、ざっくばらんな話し合いが行なえている	2か月に1度、併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所と共に開催している。利用者家族、協力医、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティアの参加がある。内容は事業報告や医師との質疑応答が多い。会議の中で「近隣に街灯が少なく暗い」との話を受け、昨秋から非常階段に照明をつけ、防犯の一助とした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	細かな内容であっても常に報告、相談、連絡が行える体制が整える事が出来ており、又、実際にそれを行なっている。	市や保健所の開催する研修に参加している。市の介護相談員の派遣を受けている。生活保護受給者のケースワーカーの来訪がある。平塚地域介護システム会議の分会で行政との情報交換をしたり独自の研修に参加したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間に関しては防犯上の観点から施錠しているが、日中は解錠している。 フロア出入口はキー入力開閉とさせて頂いている	法人のマニュアルを使用し、毎年職員に研修を行っている。丁寧な言葉を使うことを意識し、言葉による拘束がないように指導している。ユニットの出入り口は建物の構造上、施錠しているが、利用者が外出したい素振りがあるときは極力散歩に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な社内研修の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な社内研修の実施。 成年後見人の活用。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず実施し、ご納得の上での署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の実施。 苦情・相談窓口の設置。	利用者家族の意見は面会時や運営推進会議の時に聞いて対応している。運営推進会議開催の通知を毎回出しており誰でも参加可能である。会議の議事録を全家族に送付し、話し合いの内容を周知している。家族から「イベントに家族も呼んでほしい」との意見があり、便りの中でイベントへの参加を呼びかけることにした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2回/年の職員面談の実施。 又、それ以外にも、必要時逐一面談を実施。 全体会議を毎月開催。	毎月、併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所と共に全体会議を開催している。2時間のうち1時間を伝達や話し合いとし、後の1時間を合同研修としている。職員は意見をリーダーや管理者に直接述べたり、連絡ノートに記入している。職員からの提案で外部講師による「安全運転研修」を実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に個々に目標設定等をして頂き、各自の目標到達に向けてのフォローを行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修はもとより、社外研修の斡旋を積極的に行い、又、そのフォローを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市システム会議に参加。 各事業所との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは顔を覚えて貰う事から始める。傾聴を重視し、信頼関係の構築を図るべく努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前段階からご家族とのコミュニケーション構築を行い、不安・疑問等の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、担当者会議の実施		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常家事等を一緒に行なう事で一体感が抱けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議、都度、連絡を取り合い、現状等の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人等の面会の積極的受入を実施。	面会は自由となっており、宗教関係の知人や友人の来訪がある。居室や居間に案内し、湯茶でもてなして、ゆっくりしてもらえるよう努めている。毎月来訪する歌のボランティアが作成した懐かしい曲目のプログラムに沿って、皆で歌唱を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション等にて連携を構築。フロアレイアウトの工夫		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口は常に開放し、何時でも相談等受け付ける事をご家族様等に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各居室内の荷物等自由にお持ち頂いている。 又、生活時間に関しても各自のスタンスに出来る限り応えられるよう対応している。	家族や前任の担当者からの聞き取りを参考に、生活歴の把握に努めている。また日々の本人との会話の中から、思いや意向を把握するよう努めている。利用者の思いは、職員間の申し送りで情報を共有し、家族に伝えることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設関係者（ケアマネ等）との連携を図り、又、ご家族からのヒアリングを行っている。 日常生活会話の中から情報を引き出し、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングを中心に常に状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者を設け、担当者と計画作成担当者との連携を図り、他者からの情報収集も行い、状況変化対応を行なっている。	居室担当の職員を中心に、法人独自のアセスメント表を使い本人の意向に沿うよう検討している。カンファレンスには医師の意見も含め居室担当職員と計画作成担当が出席している。毎月モニタリングを行い、6か月ごと、もしくは状況に応じ介護計画の見直しを行い、サービスに生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人生活記録、職員申し送りノートの活用。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コミュニケーション構築を大事にし、そこから見つけるニーズ等を常に取り込み、日常生活サービスに取り入れている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、外出等、積極的に社会参加する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的往診の実施。又、それ以外でも何か有れば直ぐに駆けつけて頂ける環境が築かれている。	従前から通っていた総合病院や専門医へは原則家族対応で受診している。協力医は、地域在宅医療で知名度が高く、入所後にかかりつけ医の変更を希望する家族が多い。毎月の会議に出席しているため、利用者全員の状況に詳しく、急変時などは看護師との協力体制がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートの活用。全体会議、フロア会議の実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作成担当者を中心に、常に医療機関との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルの整備、研修の実施。又、協力医等との連携にて支援を行なっている	「重度化した場合における対応に係る指針」を入所前に説明している。医師と家族との話し合いの上で看取り介護を行っており、事例もある。同意書、看取り介護計画書も用意している。法人のマニュアルを使用し、毎年、併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所の看護師を講師に迎え研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備。研修の実施。関連事業所看護師からの指導・助言。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の掲示。災害時等のマニュアル整備。定期的非難訓練。	9月に夜間想定での災害時避難訓練を実施した。昨年3月の火災時の避難訓練には民生委員の参加もあり消防署立会いのもと消火訓練を行った。今年の3月にも同様の訓練を行う予定である。備蓄はリストで管理し、3日分の水や食料などのほか、普段の食品も多めに用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様は全て人生の先輩であるとの認識を徹底し、尊敬の念を持ってサービス提供を行うよう努める。	接遇研修を毎年行い、声掛けの仕方などの重要性を指導している。職員全員がカードを携帯し、毎朝唱和することで、とっさの場合でも尊厳を傷つけないように丁寧な言葉かけが出来るように意識づけている。日報や個人ファイル記入時は個人名を使わず室名で表記している。個人情報を含む書類は鍵付きの書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話だけでなく、動作や表情等の観察を行い、それに伴った声掛け等の対応を行なう		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等必要最低限の時間の決まりは設けさせて頂いているが、基本本人の自由に時間を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時の更衣やモーニングケアの介助の徹底。 本人と一緒に衣類の買い物に行く等の支援。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的イベント食の開催（利用者様と一緒に手作り）。日々、利用者様からの食べたい物のリクエストを受け、それに見合ったメニューの考案。台所仕事を一緒に行なう。	今年から昼食と夕食は、併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所内で調理専任スタッフが作っている。職員は利用者と同じテーブルで食事の介助や会話に加わり「食の時間」を大切にしている。利用者は下膳や食器拭きなどを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分摂取量のチェック。各利用者様に応じた食事形態での提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導、声掛けの実施。排泄介助	各ユニットには3か所の折れ戸の車いす対応トイレがある。個人別にチェック表があり、パターンを見て声掛け誘導している。日中はトイレでの排泄ができるよう支援している。毎日定期的に掃除、消毒を行い、感染症にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要者に関しては協力医や系列看護師との連携にて排便コントロール実施。又、個々に見合った飲食物の提供		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日スケジュールは設定しているが、本人の希望等を鑑みての提供をしている。	週に2回以上は入れるようスケジュールを組み実施している。浴室はバリアフリーで浴室・脱衣所ともに暖房設備がある。主に午前中に声掛けをしているが、入浴を好まない利用者には再度午後に声掛けを行うなど、希望に応じて無理強いしないよう徹底している。毎回利用者ごとに足ふきマットを変えて使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間2時間毎の巡視。環境整備。好天時の布団干し		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医、提携薬局、系列看護師との連携に基づき服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味に合わせてレクリエーションの提供		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加。散歩、買い物等の実施	天気の良い日は車いすの利用者も近隣に散歩に行っている。公民館や地域の行事に車で出掛けている。季節ごとに郊外の菜花ガーデンや総合公園で花見を行う。希望があれば職員が付き添って買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の嗜好品等を一緒に買いに行くなどの支援。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は必ず本人にお渡しする。必要に応じて電話の引継ぎを行なう。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に則したフロアの飾り付け。毎日の清掃（利用者様と一緒に）。空調管理（利用者様主体）	リビング・キッチンが建物中央にあり、囲むように居室が並んでいる。リビングは窓が広く明るい。大きなテレビを皆で見られるよう、テーブルのレイアウトなどを時々変えている。壁や廊下には、行事の写真や季節の飾りを掲示している。トイレも等間隔に作られ、押戸なので軽い力でも開閉できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置に気をつけ、臨機応変に対応。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅から持ってきた家具等を自由に置いて頂いている。	居室は日当たりがよく窓が大きい。カーテン、ベッド、照明具、エアコンなどが備え付けられている。利用者はキャビネット、テレビ、ラジオ、鏡台などの好みの家具を持ち込み、写真、カレンダーを飾るなどしている。各居室の入り口には、花の名を記載した木製の札を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ちょっとした料理など本人が希望した際は積極的に支援させて頂いている。		

事業所名	えくせれんと湘南平塚
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和を行い、意識付けの徹底を図っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会情報を把握。 民生委員との交流を積極的に行い、日常的に情報の交換を行なっている。又、それに伴い、地域行事への参加をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物等利用者様と一緒に掛ける事により、積極的交流を図り認知症への理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、包括、家族、協力医等に毎回出席頂き、事業所状況の報告を行なっている。又、地域の方からの現状を伺う等、ざっくばらんな話し合いが行なえている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	細かな内容であっても常に報告、相談、連絡が行える体制が整える事が出来ており、又、実際にそれを行なっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間に関しては防犯上の観点から施錠しているが、日中は解錠している。 フロア出入口はキー入力開閉とさせて頂いている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な社内研修の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な社内研修の実施。 成年後見人の活用。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず実施し、ご納得の上での署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の実施。 苦情・相談窓口の設置。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2回／年の職員面談の実施。 又、それ以外にも、必要時逐一面談を実施。 全体会議を毎月開催。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に個々に目標設定等をして頂き、各自の目標達成に向けてのフォローを行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修はもとより、社外研修の斡旋を積極的に行い、又、そのフォローを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市システム会議に参加。 各事業所との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは顔を覚えて貰う事から始める。傾聴を重視し、信頼関係の構築を図るべく努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前段階からご家族とのコミュニケーション構築を行い、不安・疑問等の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議の実施		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常家事等を一緒に行なう事で一体感が抱けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議 都度、連絡を取り合い、現状等の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人等の面会の積極的受入を実施。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション等にて連携を構築。 フロアレイアウトの工夫		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口は常に開放し、何時でも相談等受け付ける事をご家族様等に伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各居室内の荷物等自由にお持ち頂いている。 又、生活時間に関しても各自のスタンスに出来る限り応えられるよう対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設関係者（ケアマネ等）との連携を図り、又、ご家族からのヒアリングを行っている。 日常生活会話の中から情報を引き出し、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングを中心に常に状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者を設け、担当者と計画作成担当者との連携を図り、他者からの情報収集も行い、状況変化対応を行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人生活記録、職員申し送りノートの活用。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コミュニケーション構築を大事にし、そこから見つけるニーズ等を常に取り込み、日常生活サービスに取り入れている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、外出等、積極的に社会参加機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的往診の実施。 又、それ以外でも何か有れば直ぐに駆けつけて頂ける環境が築かれている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートの活用。 全体会議、フロア会議の実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作成担当者を中心に、常に医療機関との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルの整備、研修の実施 又、協力医等との連携にて支援を行なっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備 研修の実施。 関連事業所看護師からの指導・助言。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の掲示 災害時等のマニュアル整備 定期的非難訓練		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様は全て人生の先輩であるとの認識を徹底し、尊敬の念を持ってサービス提供を行うよう努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話だけでなく、動作や表情等の観察を行い、それに伴った声掛け等の対応を行なう		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事時間等必要最低限の時間の決まりは設けさせて頂いているが、基本本人の自由に時間を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時の更衣やモーニングケアの介助の徹底。 本人と一緒に衣類の買い物に行く等の支援。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的イベント食の開催。（利用者様と一緒に手作り） 日々、利用者様からの食べたい物のリクエストを受け、それに見合ったメニューの考案。 台所仕事を一緒に行なう。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分摂取量のチェック 各利用者様に応じた食事形態での提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導、声掛けの実施。 排泄介助		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要者に関しては協力医や系列看護師との連携にて排便コントロール実施。 又、個々に見合った飲食物の提供		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日スケジュールは設定しているが、本人の希望等を鑑みての提供をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間2時毎の巡視 環境整備 好天時の布団干し		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医、提携薬局、系列看護師との連携に基づき服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味に合わせてレクリエーションの提供		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加 散歩、買い物等の実施		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の嗜好品等を一緒に買いに行くなどの支援。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は必ず本人にお渡しする必要に応じて電話の引継ぎを行なう。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に則したフロアの飾り付け 毎日の清掃（利用者様と一緒に 行なう） 空調管理（利用者様主体）		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置に気をつけ、臨機応変に対応。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅から持ってきた家具等を自由に置いて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ちょっとした料理など本人が希望した際は積極的に支援させて頂いている。		

# 目標達成計画

グループホーム

事業所名 えくせれんと湘南平塚

作成日 2029. 4 / 1

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	今後、地域のために事業所が活躍できることを模索し、より一層地域とのかかわりを深める	地域貢献できる事業所になる	地域住民雇用促進 地域に向けてのイベント 特産品の販売	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。